

東アジアの美術に関する資料学的研究(美 01-06-1/5)

目 的

日本を含む東アジア地域の美術を対象に、人とモノとが複雑に絡み合って多様に展開する価値形成のしくみを解明することを目指す。研究にあたっては、より質の高い資料の提示が求められる時勢に対応して、新しい技術、精度、信頼性、網羅性など必要な条件を満たすこれからの美術資料のあり方や可能性を探り、資料の収集・蓄積・公表等においてそれを具体的に実現することに留意している。

成 果

(1) 情報資料の収集のための調査

龍華寺(神奈川県)蔵菩薩半跏像および金蔵寺(兵庫県)蔵阿弥陀如来坐像をとりあげて調査・撮影を行った(津田)。また予備的に、土佐光吉筆「曾我物語図屏風」(鳥取県・渡辺美術館蔵)の調査(相澤・江村)個人(東京都)蔵の室町から江戸時代初期の絵画四点の調査(綿田)を行った。

(2) 美術史研究のためのコンテンツの形成

企画情報部のモノクロ写真データベースへの情報登録に協力したほか、室町時代の絵師宗湛に関する資料を収集整理して詳細な年譜を制作した(綿田)。

(3) 研究会の開催

折々の美術部研究会において研究経過・成果を発表したほか、美術部オープンレクチャーを本研究と関連させ、「人とモノの力学」というテーマのもとに開催した(内容については、66頁を参照)。

(4) 報告書の刊行

龍華寺蔵菩薩半跏像を対象として、『龍華寺 菩薩半跏像 美術研究作品資料 第四冊』を出版刊行した。本像は発見当時、首、胴、両腕、脚部、足先が断絶していた。それらの詳細な画像情報や調書は、天平時代脱活乾漆造技法の解明にとって、貴重な資料である。そこで本報告書においては、修理後の情報とともに修理前の情報を極力掲載することを旨とした(論文等、本文の内容については91頁を参照)。

論文等掲載 2件

- ・綿田稔「雪舟入明補遺 シンポジウム報告と『破墨山水図』のこと」 『天開圖畫』6 pp.23-40 06.9
- ・綿田稔「雪舟自序を読む」 『雪舟等楊 「雪舟への旅」展研究図録』 中央公論美術出版 06.12

口頭発表 7件

- ・中野照男「大谷探検隊将来衆人奏楽図 図像の再検討と光学的・科学的調査による知見」 総合研究会 東京文化財研究所セミナー室 06.6.13
- ・皿井舞「10世紀の造寺造仏」 第40回美術部オープンレクチャー 東京文化財研究所セミナー室 06.10.27
- ・綿田稔「雪舟と宗湛」 第40回美術部オープンレクチャー 東京文化財研究所セミナー室 06.10.28
- ・綿田稔「雪舟と山口(江戸時代篇)」 「雪舟への旅」展連続講座 山口県立美術館講座室 06.11.25
- ・江村知子「曾我物語図の系譜および土佐派の物語絵について 宗達、光琳へとつづく絵画表現の水脈」 美術部研究会 東京文化財研究所 06.12.18
- ・津田徹英「横浜・龍華寺蔵 菩薩半跏像をめぐる知見」 美術部研究会 東京文化財研究所 07.2.7
- ・皿井舞「平安時代前期の工房と上醍醐の造像」 美術部研究会 東京文化財研究所 07.2.28

出版物 1件：『龍華寺 菩薩半跏像 美術研究作品資料 第四冊』 07.3

研究組織

中野照男、田中淳、津田徹英、塩谷純、綿田稔(以上、美術部)、山梨絵美子、勝木言一郎、皿井舞、江村知子(以上、企画情報部)、相澤正彦(客員研究員)